

日本地質学会第133年学術大会（2026 金沢大会）



市民講演会 in 福井

2026年9月13日（日）14:00～16:00

会場：福井県県民ホール

（福井市手寄1-4-1 アオッサ8F）

福井駅より徒歩1分

入場無料、
事前申込不要。
どなたでもご参加
いただけます

北陸の足元で何が

起きているのか？

— 能登半島地震から学ぶ —

1948年（昭和23年）6月28日月曜日、福井県嶺北地方北部（坂井市丸岡町付近）を震源とするマグニチュード7.1の福井地震は戦後復興の最中にあった街に再び大きな被害をもたらしました。2024年（令和6年）1月1日に発生した能登半島地震は、人口減少や高齢化が進む地域における災害対策の重要性を改めて私たちに示しました。北陸の足元に広がる「地質」には岩石・堆積物として過去の地震の記録が残っています。これらの地震からどのように情報を抽出することができるのでしょうか？



「令和6年能登半島地震と福井県の地震」

平松 良浩（金沢大学 理工研究域）



「2024年能登半島地震を引き起こした断層を掘り抜く『NEPTUNE計画』の紹介」

大坪 誠（産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門）



「能登半島地震の被害の諸相～社会的側面から読み解く～」

青木 賢人（金沢大学 人間社会研究域）

本市民講演会は、競輪の補助を受けています。



北陸の足元で何が 起きているのか？

— 能登半島地震から学ぶ —

科学者たちは今、能登半島地震の震源域に迫る深さまで穴を掘って地震を理解しようとする壮大な挑戦を計画しています。前人未到の掘削プロジェクトから、日本の地震研究の未来と私たちの防災・減災を考えることが本講演会の目的です。本講演会では異なる分野の専門家と共に、我々の足元の「地質」を見つめ直し、能登半島地震を例に使って「なぜ？」を深掘りし、私たちが「これから」何をすべきかを考えるきっかけにしたいと思います。

講演タイトル:「令和6年能登半島地震と福井県の地震」



2024年1月1日に能登半島北岸沖合の海底活断層が動き、マグニチュード7.6の大地震である令和6年能登半島地震が発生し、能登半島を中心に大きな被害を出しました。また、この地震は北陸一帯の活断層（海底も含む）にも影響を与え、地震が起こりやすくなった石川県西方沖の海底活断層では2024年11月にマグニチュード6.6の地震が起きました。福井県にも多くの活断層が陸域と沿岸海域に存在しています。本講演では、令和6年能登半島地震の発生メカニズムや被害を概観し、福井県での地震リスクについて考えます。

平松 良浩: 京都大学 理学研究科 地球物理学専攻修了 博士(理学). 現在、金沢大学 理工研究域 教授

講演タイトル:「2024年能登半島地震を引き起こした断層を掘り抜く「NEPTUNE計画」の紹介」



2024年能登半島地震はなぜ発生したのでしょうか。能登半島では地下深部の流体（水）が断層活動に深く関わっている可能性が指摘されています。NEPTUNE計画は、この地震を引き起こした断層を直接掘り抜き、断層岩や地下流体を採取・分析することで、地震発生の実態に迫る世界最先端の研究です。本講演では、断層から直接採水する挑戦的な試みや、地下で水がどのように断層を動かし地震を引き起こすのかについて、最新の研究計画を交えながらわかりやすく紹介します。地震の新たな理解と防災への貢献についてもお話しします。

大坪 誠: 京都大学 理学研究科 地球惑星科学専攻修了 博士(理学). 現在、産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門

講演タイトル:「能登半島地震の被害の諸相～社会的側面から読み解く～」



令和6年能登半島地震は、M7.6に達する大地震であり、津波や多数の地すべり・崩壊を伴う大規模なハザードとなった。一方で、地震による被害は、ハザードだけでなく、地域が持つ脆弱性（Vulnerability）にも左右される。能登半島地震では、半島であるという地勢と、日本有数の過疎高齢化地域であるという地域特性が、震災の様相に大きな影響を与えている。能登半島地震は「半島震災」「過疎地震災」とも呼ばれている。過疎高齢化は日本全体にとって共通の課題であるとともに、島国である日本には半島地域も多い。能登半島地震の震災の諸相を読み解くことで、今後の日本の防災に対する教訓と可能性を考える。

青木 賢人: 東京大学 理学系研究科 地理学専攻修了 博士(理学). 現在、金沢大学 人間社会研究域 准教授